東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2007 年 3 月 16 日

イスラームにおける人物像と預言者ムハンマド

ムスリムの皆様。アッ・シャムス第７，８、および９節において、アッラーは「魂と、それを釣り合い秩序付けた御方において。邪悪と信心に就いて、それ（魂）に示唆した御方において（誓う）。本当にそれ（魂）を清める者は成功する」と語られています。

ムスリムの皆様。クルアーンが対象とするのは人間です。人間は、その精神的、社会的状態によって評価されます。その状態に関して、クルアーンでは、人は、制圧を行い、暴虐をふるい得る存在、他者の権利を強奪する存在とされています。心理的な面でも、欲求や欲望、好みなどのとりこになってしまい得る存在です。人を、本来あるべき状態に導くことを目的とするクルアーンは、同時に、人に自らを気づかせるのです。無花果（いちじく）章（アッ・ティーン）第４節において偉大なるアッラーは「本当にわれは、人間を最も美しい姿に創った。」と語られています。

人間が最も美しい姿に創られたということは、精神的な面でも、よいもの、優れたものを得ることができるキャパシティ、素質、能力を持っているということでもあります。これらのよいもの、優れたものというのが何を指すかは、クルアーンで繰り返し繰り返し説かれています。それらは美徳や、品性に満ちた振る舞いです。こういった特性が、地上におけるアッラーの代理であるという名誉が授けられた人間たちが身に付けるべきものであります。授けられているこの栄誉ゆえに、人間は、信仰し、イバーダを行い、適切な行動をとり、博愛精神に満ち、真実を語り、善意に満ち、正直で、両親に対してよく振舞い、隣人にもよく接し、全ての人々の役に立つ存在であるのです。クルアーンが形付けている人間というのは、こういったものを体得している人のことなのです。ただ、クルアーンにおいては、人間の精神の面に注意が向けられ、人間が両親によく振舞わず、約束を守らず、裏表があり、恩知らずで、クルアーンの言葉に耳を閉ざし、この世的なはかない欲望に縛られ、自分勝手であることが語られているのです。

クルアーンにおいて、信仰、思考、そしてその行動によって示されている、人間のひとつのあり方があります。真実を追い求め、そのためには自らを犠牲にもできる人間であり、それが聖イブラーヒームであることがクルアーンでは明らかにされています。さらにクルアーンでは、その振る舞い、本質、そしてその言葉において正しい人として、預言者ムハンマド（SAV）というモデルが示されています。預言者ムハンマド（SAV）に関して、クルアーンで褒め称えられている、最も明瞭な特性は、その徳です。預言者ムハンマド（SAV）は、「フード章は私を老いさせた」と語られておられ、その理由は、この章の第１１２節で「それであなたと、またあなたと共に悔悟した者が命じられたように、（正しい道を）堅く守れ。法を越えてはならない。」というアッラーのご命令がご自身へのものであることでした。

ムスリムの皆様。預言者ムハンマド（SAV）は、ウンマのため、その心のこもった振る舞いによって、信頼できる方であるという特質をもたれ、責任という認識を体得しておられたのです。だから私たちも、ムスリムとして、人々の模範、モデルとなることができるよう努め、それにふさわしく生きなければならないのです。